

# 18歳出産風俗で生計

## ここにいるよ

沖縄 子どもの貧困

### 第2部 親は・・・(10)

#### サツキ(上)

まだ幼さが残るサツキ(21)は、3歳の息子がいるシングルマザー。17歳で妊娠、18歳で出産した。

高校2年で中退後、妊娠していろいろ分かった。母親は反対したが、サツキは産むことを選んだ。

「父親、きょうだいのいない家庭で育ち、友達も少なかった。自分の家族がほしかった」という。

がでかい「ワサイ」といじめられるようになった。

勉強が苦手で、テストの点数は一桁賞のことが多かった。勉強内容は理解できず、授業中は睡っていた。中学のころから不登校になり、近所の公園で酒を飲んだり、たばこを吸ったりした。反社会的に入会し、いじめ立ちを無理にぶつけた。

「勉強についていけない。クラスにもなじめないし、いつの間にか置いていた」

「勉強は諦めて、働く母親は家計を支えるため、仕事に忙しく、授業参観などにも、なかなか来られなかった。

中学卒業後は不登校経験者のを受け入れる県外の高校に進学したが、ホームシックになり、中退して沖縄に戻った。

## 「子どもが子どもも育ててる」



3歳の息子の靴を並べるサツキ

サツキは黒髪を出産後も出歩き、母子の面倒が絶えなかった。母親はサツキが、1歳のとき、仕事を辞めて一人で県外の故郷に帰った。

アパートで暮らし始めたサツキは、子育てに迷われた。育児の大変さは想像以上だった。息

子は夜泣きがひどく、眠れない。掃除や料理、家計の管理もろま

くできなかった。「子どもが子どもを育ててる」と言われたけど、こいつはこ

とんだらうなあって思った」

生計を立てるため、レンタルショップでアルバイトを始めた。月収は6万円程度。児童扶養手当や児童手当を入れても、14万円ちょっと、認可外保育園の3万円、2万円5千円の家賃、衣類費、書籍代を削えず、

支払いが滞ることもあった。

「一掃に帰らずようになった。1つ年上の彼氏は仕事が続かなかった。

サツキは生計を立てるため、那覇市の松山や社の風俗店で働くようになった。

「急いで休まれたら困る」と言われて、不採用になったが、風俗の仕事は簡単に決まった。

風俗の仕事だと、子どもの急な病気を休みづらかったが、風俗の仕事は連絡すれば、すぐ休めた。迷いもあった。給料は1日3万円のときもあれば、ゼロのときもあって不安定だった

が、その日支された。

午後9〜10時ごろ出勤して、午前9〜10時ごろ帰る経路逆転の生活。朝、保育園に子どもを送れないことが増えた。夜間保育園から、そのまま別の保育園に預け替えることもあった。生活が乱れ、子どもと過ごす時間が少なくなっていた。

(文中仮名)

(1)子どもの貧困 取材班・高橋謙子 (2)火・木曜日掲載